



知立の山車文楽とからくり

DASHIBUNRAKU KARAKURI Chiryu



山車

山車の奉納の起源は承応2年(1653)からと伝えられ、現在は山町・中新町・本町・西町・宝町の5町がそれぞれ奉納しています。知立の山車は、彫刻に金箔を施し梶棒が後方にのみある点が、特徴のひとつとされています。5町の山車は、昭和40年(1965)にそれぞれ市の文化財に指定されました。

知立まつりでは山車の担ぎ上げが行われます。ある年、刈谷城主が上覧する中で先頭の山車の車軸が折れ、とっさに梶棒連が後方の梶棒に力をいれて人力だけで神前まで進み奉納しました。それを藩主が賞賛し、以来担ぎ上げが伝統になったといわれています。



知立の山車文楽

知立の山車文楽は、延享2年(1745)頃から山車の上で行われるようになったといわれています。文楽は義太夫の語りや三味線の音色に合わせて3人の人形遣いが一体となって人形を操り、浄瑠璃芝居を演じます。

現在山車文楽を上演しているのは山町・中新町・本町・宝町の4町です。このような人形芝居が山車の上で上演される形態は知立でしか見られないもので、平成2年(1990)に国の重要無形民俗文化財として指定され、平成28年(2016)にユネスコ無形文化遺産に登録されました。



知立の山車からくり

知立の山車からくりは承応2年(1653)に上演がはじられたとの説もありますが、具体的に記録が見られるのは元文元年(1736)のことです。

知立のからくりは、三味線や義太夫の語りからなる浄瑠璃に合わせて、からくりだけで物語を演じる芝居形式で上演します。これは全国的にも大変珍しいといわれ、知立の山車からくりの特徴です。また糸を操って動かすため、大変高度な技術が必要であるともいわれています。現在からくりを上演しているのは西町のみで、演目は「一の谷合戦」、「平治合戦」があります。



知立の山車からくりは山車文楽と同様に、平成2年(1990)に国指定重要無形民俗文化財に指定され、平成28年(2016)にユネスコ無形文化遺産に登録されました。

知立まつり

知立まつりは知立神社の祭りで、毎年5月2日・3日に本祭と間祭が隔年で開かれます。そのような形をとっているのは、市原稲荷神社(現刈谷市司町)の例祭と交互に行われていた名残であるといわれています。現在本祭では山車が、間祭では花車が奉納され、知立神社は大変賑わいます。

本祭では、町の人々が山車文楽とからくり人形芝居を奉納します。町の人々によって継承された伝統の技は知立まつりの見どころのひとつです。



本楽 山車巡行地図

5月3日 金・祝

令和6年

5月2日(木) 3日(祝)

ちりゅう

知立まつり

会場 知立神社及び周辺道路

交通 名鉄「知立駅」下車徒歩約12分 ※お越しの際は公共交通機関をご利用ください。 ※知立市駅前駐車場にレンタサイクルがあります。

名鉄名古屋本線 金山 神宮前 知立 東岡崎 豊橋

KATCH 生中継予定

令和6年5月3日 正午～午後6時(宮出終了まで)

【問合せ先】知立市観光協会 ☎(0566)83-1111 <https://www.chiryu-kanko.com>

LINE 知立市 LINE 公式アカウント

西三河ぐるっとナビ <https://www.nishimikawanavi.jp/>

西三河の観光ポータルサイトと自由にルートを作成できる ルート作成システム「Myたびノート」がOPEN! 観光スポットやイベント情報だけでなくグルメ、宿泊予約など便利な機能満載! 西三河を周遊して楽しむためのコースや季節の特典なども充実しています! 西三河だけの必須アイテム「西三河ぐるっとナビ」を是非ご利用ください。



ユネスコ無形文化遺産・国指定重要無形民俗文化財 知立の山車文楽とからくり



知立市マスコットキャラクター ちりゅっぴ(黒子Ver.)

知立の山車からくり

知立の山車文楽

衣浦定住自立園 イベント 高浜市 5月11日(土)・12日(日) 場所 ●人形小路(高浜市屋敷町) ●実浦町 第31回東浦町於大まつり 4月20日(土) ※雨天縮小開催 ●於大のみち ●於大公園 ●イオンモール東浦セントラルコート